

キーワード13 非言語コミュニケーション

休み時間に、いつも元気なAさんが一瞬暗い表情をしているのに気がついたB教諭が、Aさんに声をかけた。

B教諭：「Aさん、なんか元気ないな。何か困っていることがあったら話してごらん。」

Aさん：「実は…。最近クラスのCさんから無視されていて…」

B教諭：「そうか、いつも明るくしているので気付かなかったよ。担任の先生には相談してみたの。」

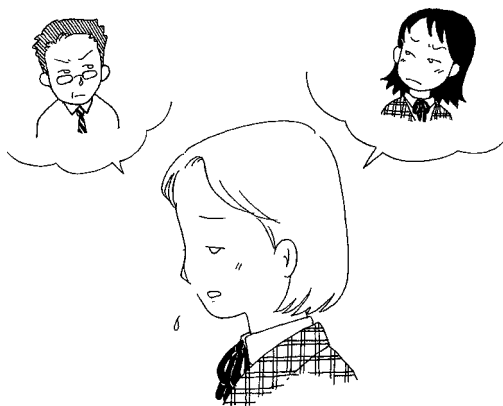
Aさん：「いいえ。あの先生はいつも私のことを横目で見るんです。きっとあの先生は…。それにいつも怒っているみたいで…。」

Aさんはひざの上で両手を握り締め、唇をかんでいます。

B教諭：「そうか…。何か言いにくいことがあるんだね。」

Aさん：「…。」

いつになく硬く厳しい表情のAさんに、B教諭はポンと肩をたたいて、放課後自分が話を聴くことを約束した。



事例では、教師が生徒の一瞬の表情を読み取り声をかけています。つらさを笑いで紛らし、本当の気持ちを隠している子もいます。

93%は、非言語コミュニケーション

非言語コミュニケーションの研究によると、「相手との意志の疎通に関わる要素は、『話す言葉の内容』が7%、声の質・大きさ・テンポなどの『周辺言語』が38%、見た目・しぐさ・表現などの『態度』が55%である」そうです。

非言語コミュニケーションとなるもの

「非言語コミュニケーション」として意味をもっている主なものは、次のようなことがらです。

- ① 姿勢や動き
- ② 表情
- ③ 目の表情
- ④ 沈黙
- ⑤ 視線・アイコンタクト
- ⑥ 話し方（抑揚・声のトーンなど）
- ⑦ 距離と空間
- ⑧ 時間
- ⑨ 色彩

これらの非言語コミュニケーションは、言葉と一緒に使われて、言葉の内容をいっそう豊富にします。

非言語コミュニケーションを読み取る

非言語コミュニケーションに表れている子供の本音を知るためには、「いつもと違う」子供のちょっとした表情やしぐさを感じ取ることが必要です。そのためには観察が欠かせません。

また、教師があまり意識をしていなかったり、癖になっている行動の中で、子供に不快感を与えたり、誤解を生むこともあります。教師からの非言語コミュニケーションにも、注意が必要です。